

原医研腫瘍外科

【一般目標】

- 1) 医療者の一員として診療に従事することで、医師としての責任感、職業的な技能、思考法、態度を、自らの実践の中で学ぶ。
- 2) 基本的診療手技とコミュニケーション技能を身につけ、患者およびその家族と良好な対人関係を築いて診療を進めることができるようになることを目指す。
- 3) 講義で学んだ知識を再確認し、また、講義では得られなかった、より実践的な知識を身につける。
- 4) 担当する患者の問題の理解に、基礎医学、臨床医学、社会医学の知識を応用でき、病因・病態の理解から診断・治療までの一連の流れを総合的に理解する科目横断的な知識の応用と、問題解決型の思考過程を身につけることを目指す。
- 5) 実際の医療に直接接するなかで、自分の将来の医師像を具体的に構築する。
- 6) 外科疾患（特に悪性腫瘍患者）を受け持ち、外科的医療を学ぶ。外科医としての基本的訓練のみならず、臨床腫瘍医としての基本的な知識を取得し、その実地訓練をおこなう。

【到達目標（行動目標）】

- 1) 患者および家族と良好な人間関係を築くことができる。
- 2) 患者および家族から診療に必要な情報を収集し、取捨選択して整理できる。
- 3) 身体診察を適切に実施し、必要な情報を収集できる。
- 4) 腫瘍外科（乳がん、食道がん、肺がん）領域主要な症候を理解し、鑑別診断の原則に基づいて以後の診療の計画を立案することができる。
- 5) 腫瘍外科（乳がん、食道がん、肺がん）領域で用いられる主要な検査について、概要、有用性、限界、危険性を説明し、その結果を解釈できる。
- 6) 腫瘍外科（乳がん、食道がん、肺がん）領域における主要疾患について、症候、病態、診断、治療を説明できる。
- 7) 収集した情報を基に、POMR＜問題志向型診療記録＞を作成できる。
- 8) 症例を要約し、カンファレンスで提示、討論することができる。
- 9) 主治医とともに術前管理を学び、手術前のインフォームドコンセントに参加できる。

- 1 0) 実際の手術に参加し清潔操作、手術の介助、基本的な縫合ができる。
- 1 1) 手術所見に基づき、手術記録を作成できる。
- 1 2) 担当患者の術後管理に参加し、問題点を把握できる。
- 1 3) 腫瘍外科（乳がん、食道がん、肺がん）領域における癌の化学療法について学び、作用、副作用について説明できる。
- 1 4) 腫瘍外科（乳がん、食道がん、肺がん）領域における臨床試験の内容、意義について学び説明できる。
- 1 5) 終末期患者に対する医療を学び、患者個々の問題点を抽出し説明できる。

【実習の内容】

- 1) 第1週の月曜日午前中にオリエンテーションを行い、ポートフォリオを配布するので、実習中に学んだこと、体験したことを実習中毎日漏らさず記入すること。また、実習中に調べた知識や検索した文献なども、すべて綴じ込みこと。
- 2) 第1週の月曜日に指導医を割り当てるので、以後は実習期間中、常時指導医と行動を共にすること。指導医の受け持つ患者と一緒に診療し、主治医団の1人として入院から退院までの医療に参加すること。具体的にどのような診療行為を行うかは、逐一指導医の指示を仰ぐこと。
- 3) 病歴聴取や診察で得た所見、また、その後行われた検査の結果や今後の治療方針など、主治医がカルテに記載すべき事柄については、すべて学生用の紙カルテに記載すること。これは医師が実診療に使うカルテ（電子カルテ）とは別物であるが、主治医として実際に診療用のカルテを書いているつもりで、すべての情報を漏らさず正しい書式で記載すること。
- 4) 水曜日の教授回診の際には、患者の概要と現在の治療の進行状態を簡潔に教授に提示すること。また、月曜日と水曜日に症例カンファレンスがあるので、第1週の月曜日に出席して発表の手順を把握し、水曜日以降は、指導医の指定した症例について、主治医の代わりに症例提示を行うこと。そのために、既定の時間内で発表できるよう患者情報をまとめ、事前に準備しておくこと。

【当科の週間スケジュール】

	行事、等	場所	時間
月	術前カンファレンス 患者管理	入院棟 5F カンファレンス 病棟および外来	7:00－8:30 8:30－17:00
火	手術	手術室	8:15－17:00
水	患者管理 回診・術後カンファレンス	病棟および外来 入院棟 5F カンファレンス	8:00－17:00
木	手術	手術室	8:15－17:00
金	術後カンファレンス・回診 患者管理	入院棟 8F カンファレンス 病棟および外来	8:00－8:30 9:00－17:00
担当 教官	岡田 守人 教授 (PHS 3501) 宮田 義浩 准教授 (PHS 2354) 角舎 学行 講師 (PHS 3507) 浜井 洋一 講師 (PHS 3506) 恵美 学 助教 (PHS 3502) 舩本 法生 助教 (PHS 4576) 津谷 康大 助教 (PHS 2272) 笹田 伸介 助教 (PHS 3503) 見前 隆洋 助教 (PHS 4150)		

【評価】

14 項目の到達目標が実習中にどの程度達成されたかを評価する。方法は、指導医による全体的な行動（パフォーマンス）の評価、教授回診での患者提示のでき具合、カンファレンスでのプレゼンテーションの内容、記載したカルテの内容の評価、ポートフォリオの内容の評価などによる総合評価である。また、知識面では、最終日の総合討論の際に当科領域に関する質問を行い、理解度をチェックする（詳細は下表の通り）。

評 価 項 目	配点
指導医による学生の行動内容の評価	20
カンファレンスでのプレゼンテーション	20
学生用カルテの内容	10
ポートフォリオの内容	10
手術の介助、基本的な縫合	20
手術記録の内容	10
担当患者レポートの内容	10